

会 議 名	第1回 まちづくりの勉強会
日 時	平成30年 8月29日 午後7時30分～午後9時40分
内 容	<p>[テーマ] 序章 高山の未来のための<sup>まち</sup>都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 21名 (10代:1名 20代:1名 30代:7名 40代:3名 50代:4名 60代:2名 不詳:3名) 事務局 4名 <u>計25名</u></p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに (5分) 進行:事務局 ② 【前半】コメンテーターによる発言 (45分) 発言内容:30年後の高山はどんな風になっているかをイメージしてみると?期待と不安は? 発言者 :4名(高校生、事業者、主婦、公務員) 進行 :事務局 記録:NPO法人まちづくりスポット ③ 休憩 (15分) ・休憩時に、コメンテーターの発言に対する質問、議論したい事項をアンケート調査 ④ 【後半】全体ディスカッション (60分) ・アンケート意見に基づいた意見交換</p> <p>[コメンテーターの主な発言] ① 高校生 ・30年前は携帯の無い時代だった。 ・ドラえもんの世界が実現している。 ・AIが発達していく(人間の創造力を超える)ことになると思うが、対人型コミュニケーションが大事になると考えている。 AIが発達していくからこそ、人の温かさを大切にしたい。 ・訪日観光客の増加は、日本全体の訪日観光ブームによるもの。高山を訪れる訪日外国人の割合は全体の2%ほどで、これまでと同じ水準であり、高山だけが増加しているのではない。そのため、東京オリンピック以降、どうなるのか分からない。 ・観光ブームに関係なく訪れてもらうには、飛騨の良さを感じてもらいたいことだと思う。飛騨の良さは、AIにとってかわれない人の良さ。大事にしていきたいと思う。(飛騨の魅力=人) ② 事業者 ・人口が減っていくことは間違いない。その中で生きていくための「職」が大事であると思う。 ・外資を稼ぐ観光業やコミュニティが生まれるビジネスなどを大事にしたい。 ・元気さ(寿命)のために健康・GDPが大事になると思う。2050年には「全体最適」を目指していきたい。 ・医療・福祉、または企業・NPOなど、それぞれの立場の役割を意識していくことが大切であると思う。 ③ 主婦 ・「母」として、30年後、飛騨から出ていった子供たちが、戻ってきてくれるまちであってほしいと思う。そのためには「職」があることが重要だと思う。 ・自然や地域の人が子供たちを見守ってくれることなど、今ある良さを残したまま変わっていかれたらと思う。 ・「防災」として、動物や、介護が必要な方も含め、みんなで生き残れるようになればと思う。 ④ 公務員 ・観光については、30年前より観光客を誘致し続けた結果により増加している。 ・2050年には、「リアル」に「バーチャル」が加わると思う。 ・「市民」「企業」「NPO」がもっと台頭してくる。これまでのピラミッド型の社会から、ネットワーク型に変化する。</p>

- ・世の中が変わっても、高山にある「土」「光」「音」のように、そこに住む人の「DNA」は残っていくと思うし、ぜひ残していきたい。

[全体ディスカッションでの主な意見]

((問) は【前半】からコメンテーターへの質問、・はそれに対するコメンテーター他参加者の意見)

(問) 飛騨のDNAを持っている身としてどんな時が楽しいと思いますか。

- ・子供の笑顔が続いてほしいと思うとき
- ・おいしいものを食べる時、人の幸せそうな顔を見ているとき。

(問) 高校生として自分の30年後をどう考えていますか。

- ・飛騨から出て、戻ってきたらどうするのか想像できない。

(問) 多文化共生 (外国人とともに暮らしていく) についての思いや考えはありますか。

- ・30年後はもっと多文化共生になるので、常に支援が必要になると思う。
- ・違う価値観や習慣・宗教の人と接することは、すごいエネルギーが要ることだが、多様な価値観を尊重することが重要で、飛騨は日常的に関われる土壤があると思う。

(問) 30年後の職についてどう思いますか。

- ・飛騨の地だから出来ることと、インターネットでも出来ることがある。飛騨の地だから出来ることは、地元愛を持ってチャレンジすることで、新しいものが生まれる。また、人に着目したビジネスが出来る。インターネットでの仕事は、どこからでも仕事が出来、「遠い」という言葉がなくなるのではと思う。
- ・今生まれてくる子供たちが暮らしたいまちにするには、高山=仕事のまちとして世界に発信できるようにしたい。
- ・昔を維持し続けることも大切。進化しないことで都会との差別化を図る。
- ・人口が減ると自分のことで精一杯になると思う。地域やつながりという考えが薄れていく。

(問) 若い人が地元に戻ってくることにどう思いますか。

- ・郷土愛で働ける人はいいが、生活していくための職が住む所から離れるほど無くなる。
- ・市街地だけでなく、その地域ごとのモノを大切に残していきたい。
- ・家賃や土地など住居費用が高いと思う。

[アンケートより抜粋]

- ・政策としてではなく、個人が生き甲斐を見つけられる社会を目指すことも大事。
- ・いろんな人が集まり、多様な視点からの議論だった。
- ・高山が好きの人がこんなにもいるのかと思った 等

[まとめ・次回について]

- ・今回は、30年後の高山について発言いただき、さまざまな意見が出されたが、テーマを絞るにはもうしばらく今のような意見交換が必要であると思われる。次回についても、今回と同じ内容で意見交換を行う。
- ・第2回は、平成30年9月29日(土) 13:30~15:30 飛騨高山まちの博物館にて